

平成 27 年度第 3 回東名古屋医師会地域包括ケア検討委員会 議事録

平成 27 年 10 月 5 日(月)

午後 2 時～

於：東名古屋医師会事務所

出席者(順不同・敬称略)

- 委員長：笹本 基秀 (東名古屋医師会 会長)
副委員長：牧 靖典 (東名古屋医師会 副会長)
委員：水野 正明 (名古屋大学 総長補佐 教授)
都築 晃 (藤田保健衛生大学 地域包括ケア中核センター)
村居 巖 (愛知医科大学 医療相談部)
石井 学 (愛豊歯科医師会 会長)
福井 正人 (瀬戸歯科医師会 長久手歯科医会 代表)
平井 佳彦 (瀬戸旭長久手薬剤師会 副会長)
森 道成 (日進東郷豊明薬剤師会 会長)
柏木 晶 (日進市地域福祉課 課長補佐)
中根 太地 (日進市地域福祉課 地域支援係長)
横山 英治 (日進市東部地域包括支援センター 主任ケアマネジャー)
福田 麻衣 (日進市西部地域包括支援センター 保健師)
北川 考志 (長久手市福祉部長寿課 いきいき長寿係長)
廣瀬 直子 (長久手市福祉部長寿課 いきいき長寿係主任)
服部 志津子 (愛知たいようの杜 地域包括支援センター センター長)
西 あずみ (長久手市社会福祉協議会 地域包括支援センター 介護支援専門員)
加藤 健治 (豊明市高齢者福祉課 課長補佐)
松本 小牧 (豊明市高齢者福祉課 地域ケア推進担当係長)
田中 貴教 (豊明市南部地域包括支援センター 社会福祉士)
山本 正幸 (豊明市北部地域包括支援センター 主任ケアマネジャー)
近藤 克也 (東郷町長寿介護課 課長)
森本 美香 (東郷町長寿介護課 介護予防係長)
後藤 みほ (東郷町地域包括支援センター センター長)
石黒 孝康 (在宅医療中核センター コーディネーター)
永井 修一郎 (東名古屋医師会)
祖父江 良 (東名古屋医師会 副会長)
金山 和宏 (東名古屋医師会)
松浦 誠司 (東名古屋医師会)
田貫 浩之 (東名古屋医師会)
木下 雅盟 (東名古屋医師会)
嘉戸 竜一 (東名古屋医師会)
村井 良則 (東名古屋医師会 在宅医療サポートセンター コンダクター)

(1) 委員長挨拶 (委員長)

- ・ 今日予定している時間は 1 時間ですので、早速議題の方に進みたいと思います。
- ・ 後ほど皆様のご意見を伺いたいと思います。

(2) 豊明市「いきいき笑顔ネットワーク」の現状について (A 委員)

(資料、電子@連絡帳導入実績)

- ・ 豊明市いきいき笑顔ネットワークですが前回報告時から特に変わりません。登録機関 113、登録者 ID 211、登録患者数 432、記事の累積 5,967 となっております。順調に運用しています。

(資料、レポート 2015.9 介護保険情報)

- ・ 今後電子@連絡帳を活用して、急性期医療から地域に帰る時に如何に切れ目なく患者を支援していくか、実証実験という形で、モデル的な取組みを行います。藤田保健衛生大学病院に入院中の方で新規の要介護認定申請のあった方のすべてに、電子@連絡帳を説明して患者登録の同意を得て、直接市と地域包括支援センター、大学の入退院調整室と連絡を取りながら退院に向けた支援をしていくという試みを現在行っている所です。この取組みを通して、退院して地域に帰る時にどのような課題があるか〜どのような経緯をたどるのか等を半年間で検証していきたいと考えております。

(3) 長久手市「愛・ながくて夢ネット」の現状について (B 委員)

(資料、電子@連絡帳導入実績)

- ・ 登録機関は多少増加して 102、登録者 ID は 145、登録患者数 319、記事の累積 6077 と 9 月 10 日現在となっております。今後、障害者〜障害児の方にも対象を増やして行こうということで、先日、障害の関係の事業所に集まってもらい電子@連絡帳の導入に当たっての研修会を開いています。

(4) 日進市の電子連絡帳導入計画進捗状況について (C 委員)

- ・ 電子@連絡帳導入については、来年度の予算化に向けて市の企画部と調整を進めております。今年度は試行実施というような形で調整を始めています。これと並行して医療と介護のネットワークの構築を進めていきたい。来月にその研究会を立ち上げたいと考えております。ご協力をお願いします。
- ・ 電子@連絡帳導入の目標は、本格稼働は来年度 4 月で、今年度は試行実施と考えております。

(5) 東郷町の電子連絡帳導入計画進捗状況について (D 委員)

- ・ 前回の委員会で規約 (案) を作成したと報告しましたが、その後事務が滞っており現状は変わっていません。現在この課題を優先的に進めて、できるだけ早く契約してスタートしたいと考えております。

(6) 各市町の医療介護連携推進事業の現状と計画について (各市町担当者様)

(豊明市の状況) (A 委員)

- ・先程説明しましたモデル事業を行っています。ここで検討しているのは、入退院の調整に関わるルールを策定する必要があること、患者登録等です。電子@連絡帳では一番の課題が、何処でスタートするのか～誰が患者登録するのかで問題になっている。このような患者登録の役割等の検討から、今後平成 29 年度より市町村がやらねばならない拠点整備等の業務が洗い出されてくるだろうと考えています。
- ・来年度より認知症初期集中支援チーム事業も実施し、こちらでも電子@連絡帳を活用して多職種で連携しながら情報交換してサポートしていきたいと考えています。
- ・在宅医療～介護連携の拠点整備については、医師会と藤田保健衛生大学のご協力を頂きながら、拠点の場所～人材～業務内容等の検討を開始したところです。

(長久手市の状況) (B 委員)

- ・先程と繰り返しになりますが、障害者と障害児にも拡大していくように取り組んでいます。
- ・10 月から入退院調整部会を設けます。入退院時の際、特に退院時の受け渡しがいしかりと出来るように、まずは意見交換から始めていきたいと考えております。初回は 10/8(木)の予定です。

(日進市の状況) (C 委員)

- ・8 月に医師会～歯科医師会～薬剤師会～その他介護の事業所の方々が参加して、地域包括ケアの勉強会～円卓会議という形で開催いたしました。その中で在宅医療と介護の連携について国立長寿医療センターの三浦先生から講演を頂きました。
- ・今後は地域医療～介護関係者と協力して在宅医療と介護の連携の研究会～組織を立ち上げて、ネットワークの構築や ICT 導入に向けて規約作成等についても御意見を頂きたいと考えています。
- ・地域包括ケア検討会議の第 1 回を 7/22(水)に開催、11 月に第 2 回を予定しています。

(東郷町の状況) (D 委員)

- ・毎月第 1 木曜日に「在宅ケアを考える会」ということで、多職種連携の会議を行っています。
- ・8/29(土)に在宅ケアを考える会と医師会主催の講演会を合わせて、多職種連携勉強会ということで藤田保健衛生大学医学部緩和医療学講座の村井先生に「切れ目ない上質な緩和ケア提供体制の構築」についての講演を頂きました。今後も医療と介護の多職種連携ということで、このような会を続けていきたいと考えております。

(7) 今後のサポートセンター事業計画について

(E 委員)

(資料、今後の在宅医療サポートセンター事業計画について (案))

- ・前回の当委員会で永井委員が提案された事業計画案をベースに策定しています。

1. 「24 時間 365 日対応可能な在宅医療提供体制の構築を支援」について
 <実施済み (実施中) >

- ・地域包括ケア検討委員会を原則隔月で開催。
- ・在宅医療に対する調査を医療機関～訪問看護ステーションに対して4～5月に実施済みで、結果は前回委員会で報告。
- ・今年9月に、本会HPの訪問診療対応医療機関と県医師会HPのあいち在宅医療ネットについて、会員の医療機関に修正～更新～新規登録を依頼。現在業者にHPの修正を依頼中。今回の修正～更新等にて、本会HPへの登録医療機関は41機関から51機関に増加、県医師会HPの方も54機関から61機関に増加。

<今後実施予定>

- ・合同会議については、在宅医療を提供している医療機関と訪問看護ステーションの連携推進のための合同会議を11/28(土)に予定。事前準備として、5月の調査の時の訪問看護ステーションからの課題や要望に医師会で回答集を作成、医師会会員に医師会からの意見～要望についてアンケートを実施。この二つの資料を出席される方々に事前に情報提供予定。会議終了後、議事録や課題等を整理して各ステーション～医師会会員に情報提供予定。

2. 「在宅医療導入研修を実施」について

- ・研修会は、実施要項内容から想定～春実施の調査で要望有りを元に計画。

<実施済み（実施中）>

- ・ケアマネジャーの方を講師に迎えての講演会「そろそろ介護保険かな？」については7/4(土)に実施。医師会員対象で21名の参加。

<今後実施予定>

- ・10/8(木)に愛豊歯科医師会の外山敦史氏を講師に迎えて訪問歯科診療に関する講演会を開催予定。詳細は別添「歯科講演会のご案内」参照。事前申込者は今日現在、医師～歯科医師～訪問看護師～地域包括支援センター職員等合わせて30名程。
- ・資料の以下六つの講演会については現在の所未定です。在宅医療に関わる様々な職種～立場の方を講師に迎えて講演会～研修会を企画する予定。
- ・サポートセンター事業のみの予算では年2回程度の開催が限度。他の地区で実施しているように他の機関～団体～行政との共同開催も視野に入れての検討も必要。

3. 「かかりつけ医普及啓発講習会を実施」について

- ・今年度の開催は未定。多くの地域住民に参加してもらい、毎年異なった地域での開催を予定。来年の2/11(祝)に東郷町で開催予定の東名古屋医師会市民公開講座の機会に可能であればサポートセンターとしてPRしたい。
- ・来年度の9/22(祝)に長久手市「文化の家」にてサポートセンター事業として開催予定。

4. 「在宅医療に関する相談窓口を設置」について

<実施済み（実施中）>

- ・医師会HPにサポートセンター専用ページ開設（9月）。春に実施した在宅医療の調査結果、委員会議事録、講演会の開催状況等についてもHP内に掲載。
- ・管内市町公報誌にサポートセンター開設について掲載（7～8月）

<今後実施予定>

- ・相談窓口を開設については、管内市町公報誌～医師会HPに問合せ先ということで掲載しているが、それ以上のPRは出来ていない。もう少し基盤整備して体制等が整い

次第、積極的に PR していきたい。

5. 「二次医療圏のコーディネーターと密接な連携のもと検討する事項」について

- ・実施要項の中核センターの事業。
- ・後方支援病院の確保、退院調整機能の構築については現在まだ未検討の状況。今後のことを考えると、これらは急務の課題であり、実際システムとして作り上げて行くのはなかなか困難な課題でもある。中核センターの運営協議会で検討してことになる。
- ・在宅医療連携システムの互換性等の確保の検討については、少なくとも二次医療圏内の互換性の確保を図るとされている。9月には二次医療圏内のコンダクター、コーディネーター、各市町 ICT 担当者などで運用の現状～互換性確保に向けての意見交換を行った。この内容を踏まえて次回の中核センターの運営協議会に提案して検討していくことになる。

(8) その他

(委員長)

- ・瀬戸旭医師会中核センターに9月から専任のコーディネーターが配属されました。

(F 委員)

(資料、中核センターの取組について (案))

- ・9月に瀬戸旭医師会中核センターに着任いたしました。皆様のご協力を得ながら今後事業を進めていきたいと思っておりますので宜しくお願いします。
- ・7月に中核センター運営協議会で協議された5市1町の関係者を集めての「地域包括ケアシステム」の講演会について、開催の日時は来年2/14(日)、場所は日進市市民会館小ホールを予定しています。内容については、本日出席されています水野正明先生に「地域包括ケアシステムについて (予定)」のご講演を頂き、講演後5市1町の首長を交えたパネルディスカッションを行いたいと考えております。詳細についてはまだ詰めていませんので計画です。来月予定の中核センターの運営協議会で協議して委員の了承を得た後に開催の案内をしていきたい。ただ5市1町の首長に出席して頂く予定なので、非公式で開催期日～内容を関係機関～市町関係者～保健所等にアナウンスしていきたい。

(G 委員)

(藤田保健衛生大学地域包括ケア中核センターから情報提供)

- ・豊明団地にある「まちかど保健室」の進捗について報告いたします。4月末に開設して4ヶ月半で、延べ訪室者数は約1300人弱、高齢者に対する健康に関する講座への参加者は約680人です。個別の医療～介護に関する相談は260件程ですので、4～5人に1人は個別の相談もあって来訪してくる。普段医療機関では他の患者さんもいるので長い時間相談出来ない。それで保健室では30分～1時間ご相談されていく。今まで精神疾患～妄想等で近隣の商店等ご迷惑をかけていた方が団地近辺で減ったとの声もあります。一定の役割は果たしているのかなと思います。先ほどA委員からもお話が有りましたが、豊明団地は愛知県のモデル事業の一つとして介護予防～地域包括ケ

アの事業を展開していますので、自治会～住民の方と団地の中に入居している学生さん（現在 16 人で来年度は 20 人以上に増える予定）で普段から交流を続けながら地域包括ケアの推進を進めていこうと考えております。今後は学校教育の方々に協力を頂いて、子供達に継続的に指導していかないと次の担い手の理解が不十分になるので、小中高の方々に参加してもらい一緒に巻き込んでいこうと考えております。

- ・愛知県の理学療法士会、作業療法士会、言語聴覚士会の三士会が協定を結び、先日愛知県医師会の柵木会長にご挨拶して、三士会としてサポートセンター事業等を情報提供の部分で応援させて頂くことになりました。瀬戸市～尾張旭市にアンケートを展開し、療法士～リハビリ関連職種の実態調査を行いました。今月まとめて来月愛知県医師会の野田理事に今後の展開を相談する予定です。皆様方からのご要望に対応出来るような情報公開等を進めていこうと考えております。次年度には全県下で展開していく予定です。

（副委員長）

- ・国会議員の山尾志桜里氏からの要請で、山尾氏と私と藤田保健衛生大学の星長学長の三者で会談。元々山尾氏は地方検事をされていたので、特に「小児の DV」に対して問題を挙げられ、何とか出来ないかとの申し出に対して、星長先生がそのセンター的役割を藤田保健衛生大学がやろうじゃないかということになりました。小児科の方にも賛同頂いて、児童相談所とも連携しながら取り組みが始まるようです。そうすると豊明市長が DV の問題は全年齢に対応しなければいけないから、全年齢対応型で豊明市は取り組みますとのことで、非常に対応が早いので期待しております。
- ・マクロ的なことですが、内閣官房の医療介護情報の活用による改革の推進に関する専門調査会での一次報告から、2025 年の必要病床数は高度急性期で 13 万床、急性期が 40.1 万床、回復期が 37.5 万床、慢性期が 24.2～28.5 万床、合計すると 115～119 万床、回復期以外の病床削減が非常に大きくなっている。これが果たして可能かどうか。特に慢性期の病床の大幅削減は、医療介護のネットワークの構築が不可欠になる。もう一つは、今日本の置かれた少子高齢化の中では、介護離職者を出来るだけ出さない事が求められる。そうすると我々が今やっている取り組みは地域においては非常に大事になる。皆さんはそういう事を十分意識してやって頂きたいと思っています。

（H委員）

- ・長久手市は豊明市に次いで電子@連絡帳が始まりました。豊明市の事を参考に長久手市もやってきました。今後東郷町や日進市の方々は、如何に我々がやってきた事を参考に出来るかという事になってくる。
- ・長久手市と豊明市ですが、どういう対象者を患者登録するかというのは、今まで色々議論して変わって来ました。先ほど長久手市からの話にあったように障害者も含むということで拡大していく方向で、これは福祉課との連携が出来て誠に有り難いことです。やはり各市町で今後問題になって来るのは、どういう方を対象者にするかという事です。宿題という形になって申し訳ないが、次回 12/14(月)に豊明市と長久手市において対象者をどういう風にその時点で扱っているかを報告して頂きたい。また電子@

連絡帳を実際導入してからメリットとデメリットが発生していると思うので、このような部分にも触れたような物を次回 12/14(月)に提出して頂けると、東郷町や日進市も導入に当たって大変参考になると思うので、是非お願いします。

- ・入退院のルール作りについてです。長久手市で話が出ていましたが、愛知医科大学と一部東名病院と協力して行っていますが、豊明市での入退院のルール作りに医師会員は入っていますか。

(A委員)

- ・地域包括ケア連絡協議会という上部の組織があつて、その一部会である入退院調整部会で検討している。部会長は医師会の先生ですが、現在は入退院に関わる課題を抽出している所で、今後それを解決するルールは如何なるものが必要かということが、上部の医師会の先生たちが入って頂いている会議で決まっていくと考えています。

(H委員)

- ・長久手市にも要望を出していますが、地域における入退院のルール作りというのは、大病院と長久手市は当然メンバーに必要ですが、地元の医師会の代表が参加しないと細部の取り決めや問題点の拾い上げに支障があるかと思うので検討して頂きたい。
- ・先ほどE委員からの話にありましたが、「二次医療圏のコーディネーターと密接な連携のもと検討する事項」の中に「退院調整機能の構築についての検討」という事項も上がっています。この度F委員がコーディネーターとして着任されたので、入退院の調整ということであれば、豊明市と長久手市で行われている会議に参加して頂ければと思います。どういう風に入退院が進んでいくのかが、コーディネーターのお仕事に参考になると思います。

(F委員)

- ・是非とも参加させて下さい。

(H委員)

- ・前向きで豊明市も長久手市も検討して頂きたいと思います。

(委員長)

- ・最後になりますが、来年2月に二つのご講演をして頂くことになっておりますI委員に一言お話をお願いします。

(I委員)

- ・皆さんの活躍については毎回状況が進んでいて素晴らしいと思っています。地域包括ケアというシステムは当然のことながら高齢者を対象としてきましたが、今はそれを全年齢層に展開していくと共に、本当の意味で医療との連携を模索しようという事になって来ているのです。2018年には医療と介護の(2025年の前で)最後の同時改定が行われて、地域医療～地域包括ケア計画として一体化するような方向が出ています。

その時に医療と包括がどういう風に繋がるかという事については、この地域以外でも活動されております。一つはクリニカルパスというのをご存知だと思いますが、これは大腿骨頸部骨折とか、或いは脳卒中、癌等については保険点数が付いているという事で活性化してきたのですが、これを全ての所でやり始めている（疾患において）。そうすると問題になって来るのは、急性期～回復期～維持期とここまでは医療だけでストレートに順番に流れて来ますので、そのデータをまとめたクリニカルパスを在宅に持って行く時に、入退院の調整が必要になるという事になります。多くの地域の中で先行しているところとして、広島県の尾道市があります。ここでは在宅に移行する時に必ず 15 分でも良いから皆で集まって話し合おうと（各々一人の患者さん毎に）。こういう制度を作ってやっているという事ですので、そういう形が必要だということ。つまり医療の情報を何処も彼処も皆集めるのではなくて、患者さんの区切りとなるような場所でどう受け継ぐかという所に焦点を当てると良い制度になっていくと思いますのでよろしくお願いします。

- ・今後皆さんの活動につきまして一言コメントさせて頂きたいのは、この制度というのは日本の国が支えられるかどうかの大変大きな制度で、その課題になっているわけですが、ゴールは 2018 年なのです（先程言ったように同時改定もあって）。2018 年に貴方達の街がどうなっているかという事をそろそろ確実に描けると思うのです。2018 年には私の街で「こういうの」と「こういうの」と「こういうの」によって医療と介護をやっていますというのが図になるわけです。或いは希望をそこに入れるわけです。その希望をまとめた上で、そこから backcast というのですが、戻ってきて「何をやるべきか」を現在に戻す事が出来ないと、結局目の前にある課題をやっても 2018 年に間に合わないという事になります。そろそろ大体皆さんの地域で出来ると思いますので、皆さんの街、2018 年あるいは 2025 年はこういう風になっているのだという理想系を唱って、それに対して「何をやるべきか」という事にもう一回戻ってもらう。その時にこの包括ケアの立ち位置がどこにあるのかを見ることで確実に理想の街に行けるというステップを作れるのです。今は目標を決めるのではなくて、目標に至るまでのプロセスを決めるのです。このプロセスを決めて、このプロセスの完成度が高ければ目標は自然に達成出来るということです。それが無いともう間に合わない状況になっています。最初慣れないとこの方法は難しいと思いますが、相談頂ければいくらでもアドバイスさせて頂きますのでよろしくお願いします。
- ・国の方もこの医療改革～介護改革については、社会保障と税の一体改革に基づいた社会保障制度改革推進法に従ってプログラム法というのが動いています。持続的な介護医療体制を構築するための法律に基づいて、今どんどんと在宅医療サポートセンター～中核センター～在宅医療介護支援センター等々を作りなさいという形で来ているのです。これらのプログラムはしっかり法律に書いてありますので、街の計画とそのプログラムに整合性が有るかどうかをもう一回見てもらうと、もっとやる事が出てくると思います。一方この医療～介護の他にもう一つ国を支える大事なものが有ります。これが年金なのです。年金はほとんど決着が付きまして、2018 年に基盤の部分は完了です。2018 年以降は継続的に年金運用出来る体制を 2002 年から作ってきて最終年度になります。年金について現在、支払った人の多くは（厚生年金と国民年金とで

は違うが) 自分が負担した額の大体 5 倍をもらっている。これが大体 2 倍位になる。ここの所で落ち着けば良いとラインを引いていて、その後は更に改良されればもっと良くなるとのこと。こういう方向性も実はこの地域包括ケア～地域医療の連携の中で絡んでくるのです。こういった幅の広い考えで少し見て頂いた方が良いかも知れません。

- ・最後に、先週の土曜日に地域医療福祉情報連携協議会という全国 94 の自治体～医師会等で構成される会に行ってきましたが、この地域が多分最先端を走っている位です。ですから是非ともここから良いモデルを出して、遅れている所はそれを真似ていち早く良くなるという形をとって頂ければと思います。今後も色々と協力させて頂きますので是非ともこの歩みを止めないで行くと思います。繰り返しますが今から何をやるのではないのです。もう未来が決まっています、2018 年は決まっている、2025 年は決まっている、「私の街はこうしたい」という所をまず決めて、そこからもう一度見直す。こういう形を是非ともとって頂ければと思います。

○情報提供等

(副委員長)

- ・多職種連携の会議を藤田保健衛生大学にやって頂いているのですが、今度は 10/24(土) にメルパルクで午後 6 時から「COPD」についての講演会になります。これは元々多職種連携の会議で各医療機関の看護師さん～ケアマネさん～訪問看護ステーションの看護師さん等が対象ですが、行政の方も参加自由なので是非参加して頂きたい。各医療機関の受付～事務の方まで対象を広げて良いと思います。各医療機関のスタッフの方、どなたでも出来るだけ参加頂くとより地域への情報交換が密になると思います。11/21(土)は名古屋マリオットで「骨粗鬆症」の講演会になりますので、皆さんふるってご参加ください。

(I 委員)

- ・ご連絡させていただきます。この電子@連絡帳システム、名古屋市は 10/1 からスタートしています。名古屋市はもう平成 30 年に作るべき在宅医療介護連携支援センターを先に立ち上げてしましまして、8 区で立ち上がりました。来年度から更に 8 区増えて 16 区全部にそれが置かれるのですが、今年は今月の初めから 8 区でこの電子@連絡帳システムが動き始めていますので、長久手市や豊明市も名古屋市と連携が取りやすくなって来ると思いますのでよろしくお願いします。名古屋市の方もこれからということで皆さんを追っかけるとい形になると思いますが、名古屋も含めて皆さんの連携～地域との連携が上手くいけば良いと思いますのでご案内させていただきました。

○次回開催日 (予定) : 12 月 14 日 (月) 14 時～

東名古屋医師会事務所会議室